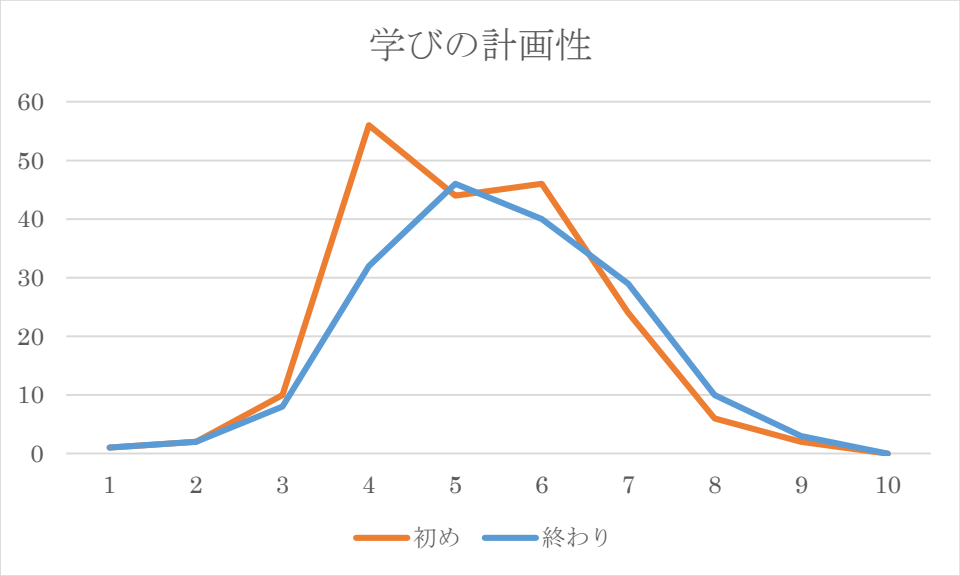
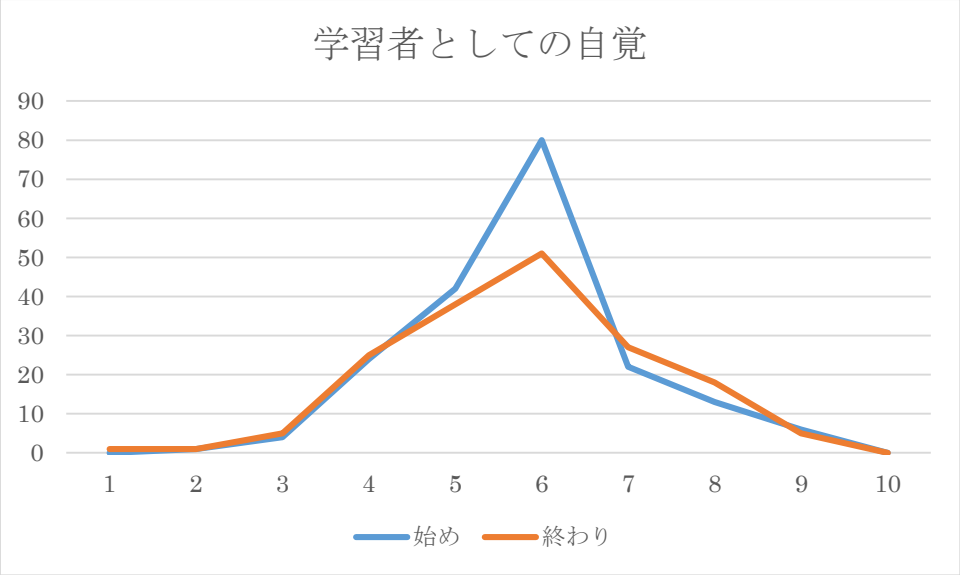
添付資料２：経営学部基礎演習　ルーブリック調査結果２０１６
及び人間主義経営演習ルーブリック評価結果 2016

1. マイルストーン（経営基礎演習）については、昨年同様、学期初めと終わりで有意な差を認めることができない。タッチストーン（人間主義経営演習）と顕著に異なる（タッチストーンの結果は、本年８月分析、報告、後ろに添付）

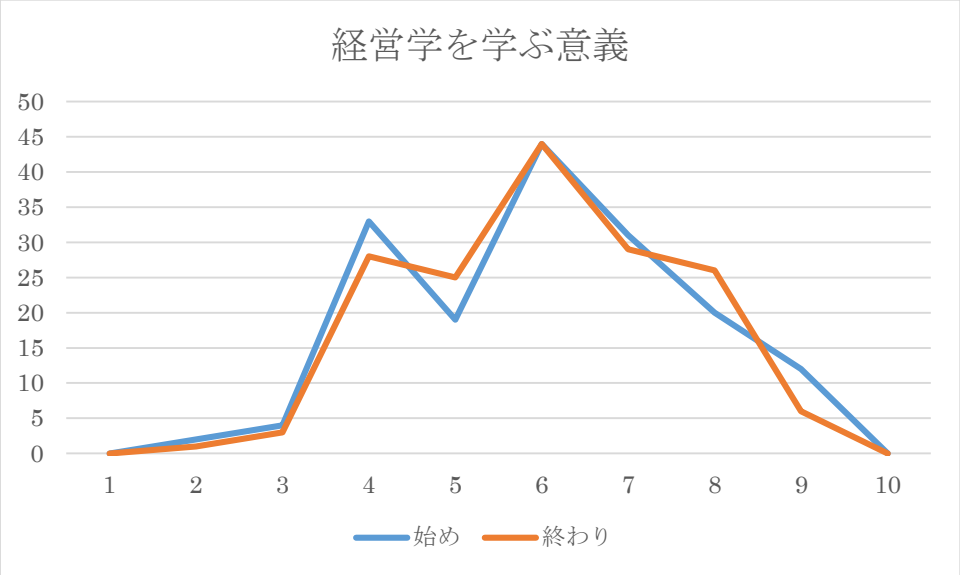
(ア) 学びの計画性



(イ) 学習者としての自覚



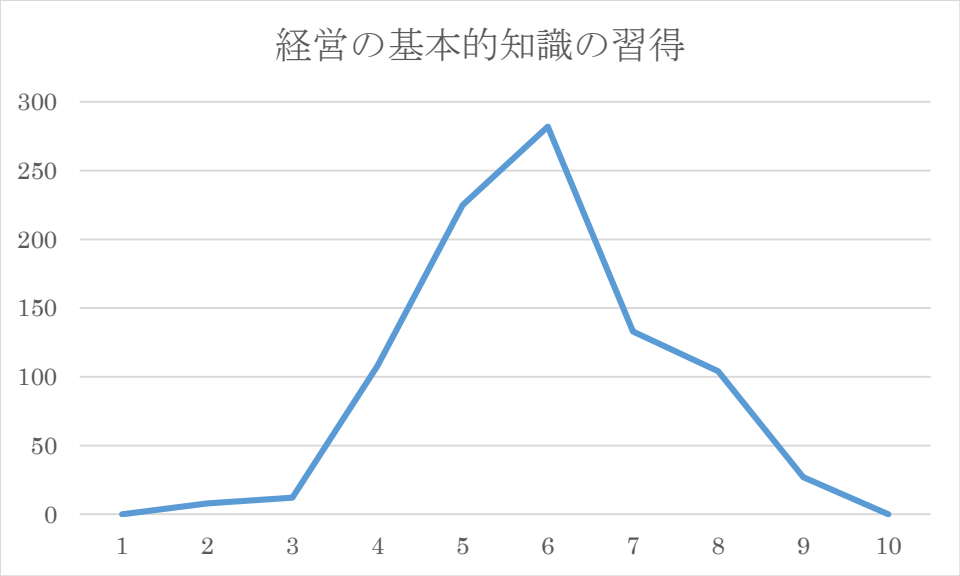
(ウ) 経営学を学ぶ意義



2.　次の項目は学期終わりだけであり比較できない

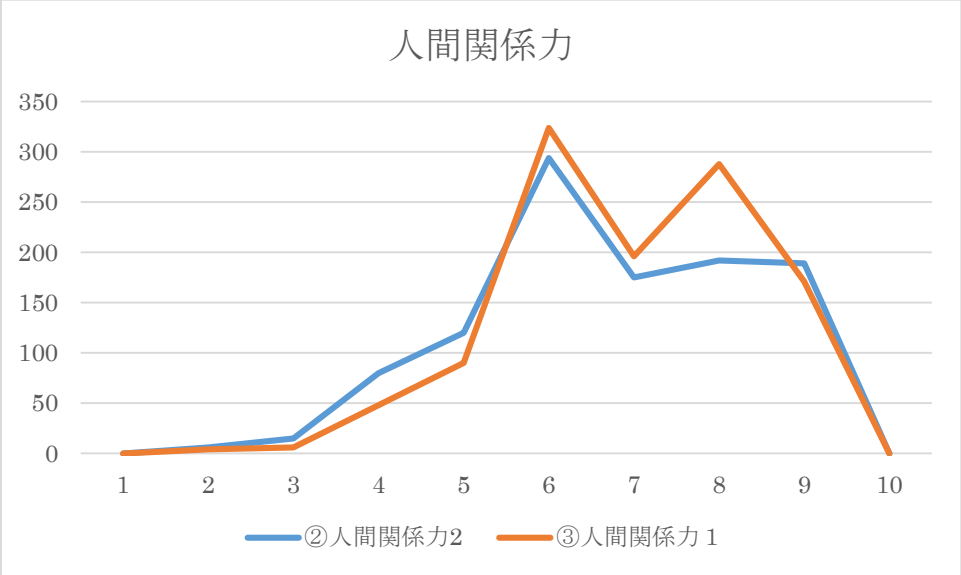
(ア) 経営の基礎知識の習得

6 を中心にした一山形の分布であり（平均 5.6)、特に特徴は見出せない。



(イ) 人間関係力

6 から 10 の高得点側に寄っている、特徴的な分布を示す（人間関係力 1　平均　6.6.　人間関係力 2　平均 6.3)。創価大学生の人間関係における積極性を顕著に表している。


人間関係力
350
300
250
200
150
100
50
0
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
②人間関係力2
③人間関係力１

人間主義経営演習ルーブリック評価結果 2016

1. 評価項目

評価項目は、次の 6 項目である。AP としてはマイルストーン時のルーブリックであるが、これまでの分析経緯から「人間主義経営演習」の授業評価のルーブリック結果と見た方がより正確な捉え方であると考えられる。

項目の①から④が大学共通項目であり、⑤、⑥項目が学部独自の追加項目である。

① 計画性
② 情報収集力
③ メタ認知/自己調整力
④ 課題共有/対立調整
⑤ 建設的他者評価（対他者）
⑥ 経営課題発見力

2. 評価実施時期

今年度は、授業始め、中間振り返り、授業終わりに実施した。中間振り返りは初めての実施である。実施時期は、

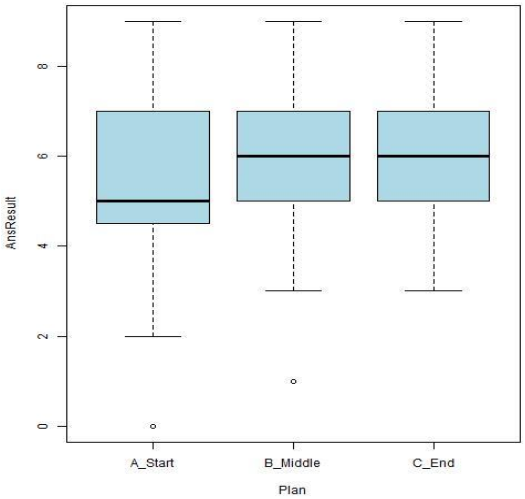
第 1 回 「授業始め」、 第 8 回（外部講師による講演の終了時点）「中間振り返り」、
第 15 回（ポスター発表の終了時点） 「授業終わり」
となっている。

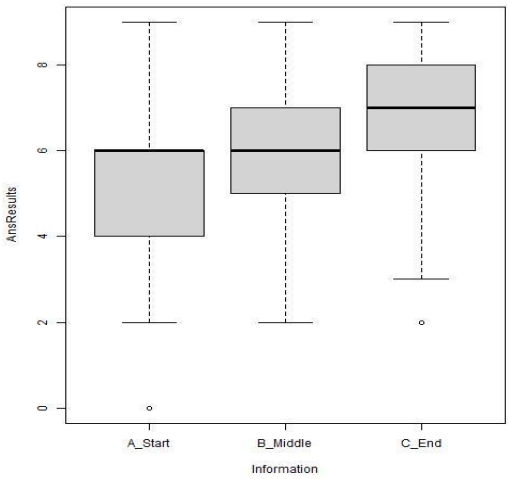
3. 各項目の回答状況

有意差尺度の、p-値については、必要な部分のみ表示している。

① 計画性
p-値(m-e)=0.009142**

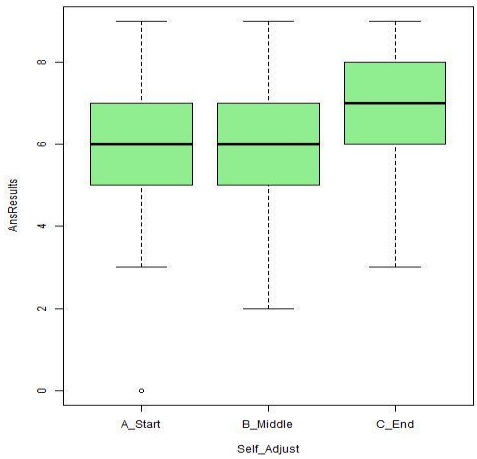
② 情報収集力
p-値(s-m)=4.456×10^{-5}**





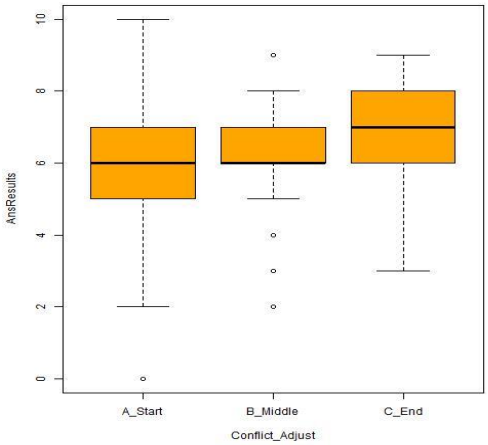
③メタ認知/自己調整力

p-値(s-m)=5.789×10^{-5}**



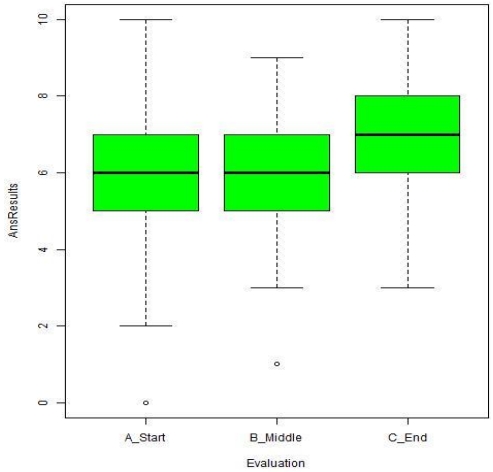
④課題共有/対立調整

p-値(s-m)=0.0394*



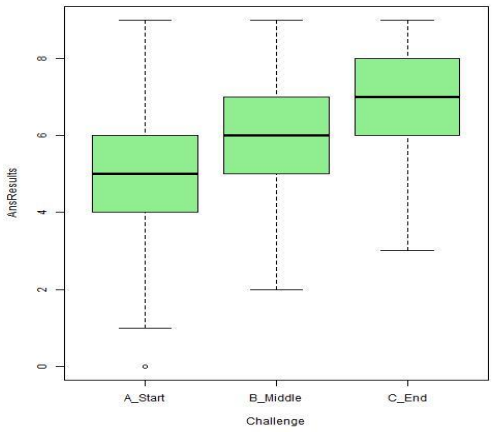
⑤建設的他者評価

p-値(s-m)=0.001614**



⑥経営課題発見力

p-値(s-m)=6.366×10^{-10}**



有意水準 0.01 で有意差が認められないのは、「課題共有/対立調整」の「学び始め」と「中間振り返り」の関係のみである（有意水準 0.05 では有意である）。それ以外は、すべてにおいて有意水準 0.01 以下で有意差が認められる。他の２ゲート、すなわちマイルストーン（1 年次：経営基礎演習で実施)やキャップストーン（３,4 年次演習で実施）では、「学び始め」

から「学び終わり」まで何らの有意差も認められない結果（2015 年度結果）とは、大きく異なる。

この授業では、第 1 回と中間の第 8 回の前半で既に学習者は、これら 6 項目の力を獲得したと認識している。第 8 回から学び終わりに至る後半部分のグループ学習により、さらに獲得した力が増強したと認識している。

なお、昨年度は、AP 本部のルーブリック作成の不手際により項目④までの大学共通項目のみ「学び始め」「学び終わり」の比較であったが、今年度と同様に 4 項目すべてで有意水準 0.01 以下の有意差が認められている。

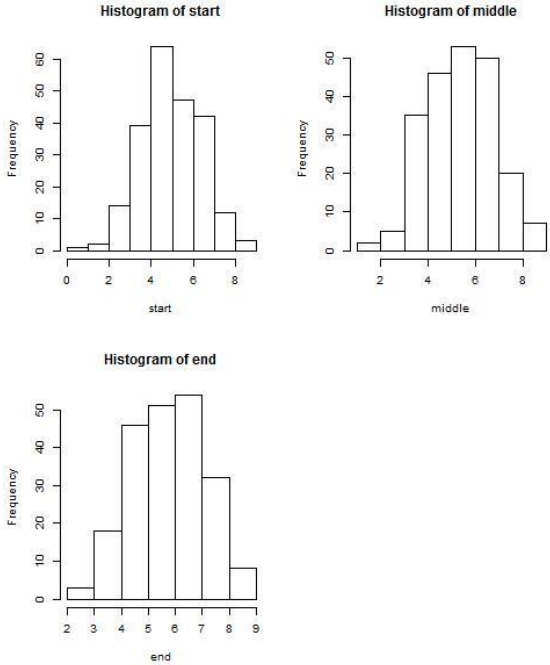
4. 力の成長量について

前項の箱ひげ図で明らかなように、力が最も良く伸びているのは、「経営課題発見力」であり「情報収集力」がそれに続いている。授業目的が達成されたといって良い。

① 分布の変化について

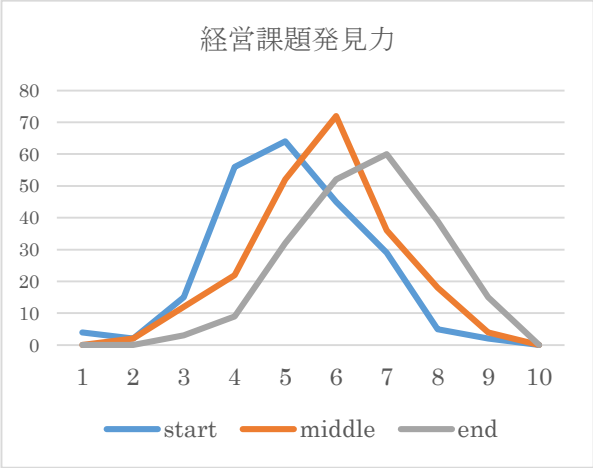
アンケートデータの分布は、本来右の例のようにヒストグラムで示すものである。

この例は「計画性」についての「学び始め」「中間振り返り」「学び終わり」である。一見して分布の形が変わっていることは理解できるが、差が明確に分からないので、便宜的に昨年同様に折れ線グラフで表して、差を明らかにしたい。



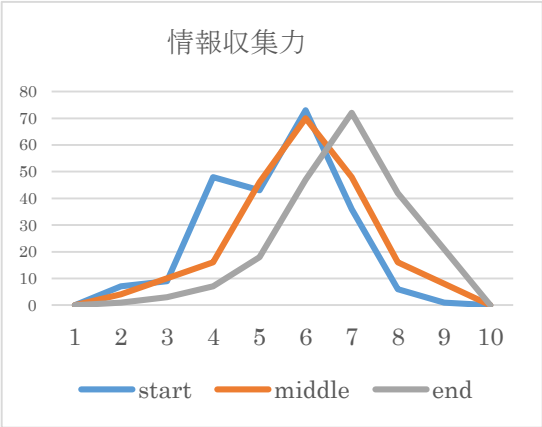
② 「経営課題発見力」と「情報収集力」の分布の変化について

i.　「経営課題発見力」



中央値は、学び始め、中間振り返り、学び終わりの順に
5.0　6.0　7.0 と変化し、平均値は、
5.058　5.743　6.59　と変化している。
各段階で明らかに分布が右にシフトして、力の獲得が明確に認識されていることが分かる。

ii.　「情報収集力」

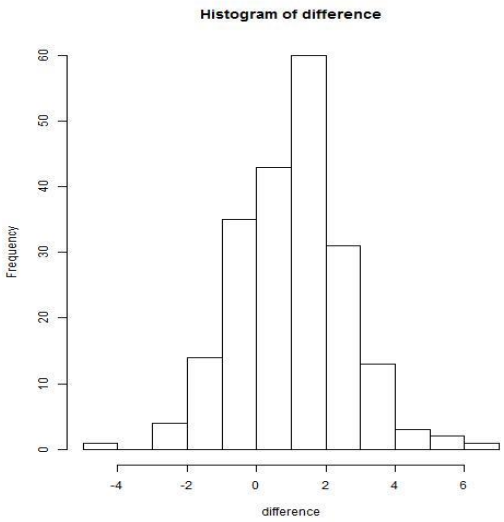


同様に、中央値は 6.0　6.0　7.0 と変化し、平均値は、5.335　5.908　6.825　と変化している。平均値では「経営課題発見力」を上回る。「学び始め」と「中間振り返り」の分布の差が、「経営課題発見力」ほどには明確でない。

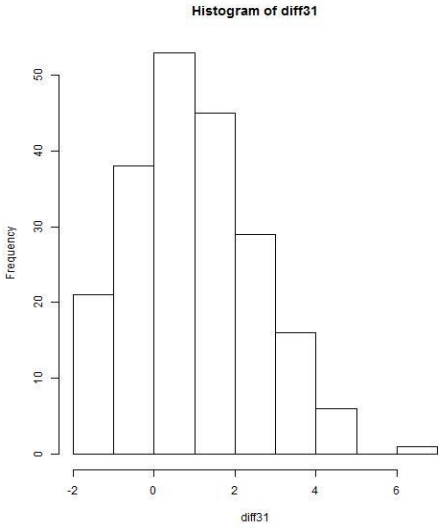
③　「経営課題発見力」、「情報収集力」の成長量

次のグラフは、学習者の個人を特定して、「学び始め」と「学び終わり」の差を一人ひとりの成長量として、ヒストグラムに表わしたものである。

i.　経営課題発見力の成長量
平均値=1.52, 標準偏差=1.62、
最大=7, 最小=－5



ii　情報収集力の成長量
平均値=1.47,　標準偏差＝1.59、
最大=7, 最小＝－2



全体としての成長については、箱ひげ図で表わされた回答の比較で推測できるものと同様であるが、二つの分布とも負の部分が存在する。つまり、学生によっては「学び始め」より「学び終わり」の方が力の獲得について認識が下がっているということである。この原因についてはルーブリックのデータ分析だけでは特定することができない。例えば、ポスタープレゼンテーションで思ったような成果を得ることができなかったなどの原因は考えられる。プレゼンテーションの評価の意味などにつき丁寧な説明をして負の部分を少なくすることが必要であろう。